

## 二人の調理人2（私小説風その八）

和食総料理長の町田には、ひとつ懸念する課題があった。

テレビでもおなじみの名料理人Mさんが町田を仲間として認めている、と聞いていたものの、町田が果たしていつときに大勢のお客様相手にその真価を発揮してくれるのか、私は心配した。

それは、前職が都心の割烹でカウンターに座るほぼ顧客相手の小人数であって、顔を見ながら好みを伺うこともでき、彼にしてみれば評判を得るのは容易かったかも知れない。

それが、見知った顔もない百人を優に超えるお客様を夏季シーズンと正月には朝・夕にそれぞれ最大三回転、果たしてどのような内容でどのようなスタイルで提供するのか？

このころのリゾートでは、召し上がっていただく料理をいちどきにテーブルへ並べてしまう旅館方式が圧倒的に主流で、一品一品を小出しに提供する格好の懐石は少なかった。ましてや、大型の当ホテルのようなところで、懐石スタイルは手間が掛かって能率悪く敬遠されていたのが現状であったと思う。

しかし、町田は敢えて手間隙の掛かる懐石料理を供することに決めたのであった。この件に関しては、町田の採用を検討していた段階でおおよその案をやり取りしていた下地があって、私は同意し、オーナーの認めるところとなった。

その下地とは、前菜からメ迄の料理をいちどきにテーブルへ並べてしまう旅館方式には、一見豪華に見せる演出は効いたと思うが、最初に仕上げた料理にどうしても鮮度を失う心配、さらには食中毒の危険すら伴う恐れがあって、やはり小まめに配膳する懐石料理にすべきだろうと、先ず町田の初案が出ていた。

食の安全は最優先のテーマであったので、当然ながら同意していたが、懐石方式などできるのか？私たち素人の知恵の範囲を超えて

いる。一切を町田に任せるしか無いという結論に至った。

一人一人のお客様に一皿一皿順繰りにお出しする。先付けから始まって、前菜・凌ぎ・吸い物・お造り・焼き物・煮物そしてご飯に果物など口なおしで閉めて、皿数で九点以上となる。それをほぼ作りたてで味わえるのだ。理想の食卓となろうが、そんなことは可能なのか？

町田に任せることとなったものの、その懐石スタイルで、まだ組んで一ヶ月も経たない二十余人の配下を使って、思うような料理が出せるのか、旨みのタイミングを失することなく配膳できるのか、堪能させねばならないし、料理の演出でも驚かせたい。考えれば考えるほど手が足りなく課題が多く、彼自身の提案ながら途方に暮れたに相違ない。

仕入れでも、頻繁にサンプルを取り寄せているようだった。

そして、私に向かって、何度も突っかかるように問題点をぶつけて来た。就寝前に全館を一回りすることを日課にしていた私を研修室あたりで待ち構えて、こうしたいがどう思う？ などと言ってくる。全く分からないながらも邪険には出来ない問題ゆえ、聞き役に徹するばかりだった。

ところが、町田は成し遂げたのだった。

よくも大変なハードルを乗り越えたものだと言を巻いた。

案の定、料理の評判は開業とともに広まり、ご意見ハガキには予想を超えたお褒めとなって返ってきたのである。その評判は当施設そのものの価値を高めたといつて過言でない。

しかし一概には喜べないものだった。原価率の一線を超えた質の高い材料に依存した向きがあった。評判の裏で、町田と私が費用の抑制をめぐるやつきとなって、一応のレベルに抑えるに相当の日数を要することとなった。

後年、町田も私もすでに職場を離れていたが、私に驚いた知らせが届いた。

町田の訃報だった。

### 町田の挑戦

町田は、前述したように当時テレビの料理番組で知られたMさん等の仲間であった。その彼らの懐石料理は、ほぼ大人数でないお客様相手が日常であったはずだ。

そこで、町田が大型リゾートで働くことになったことに、彼らの中で関心を持った者がいたらしい。町田から聞いた話だが、誰か覗きに来たことがあったようだ。

町田を偲びながら、ふと思いついたことがある。

憶測ながら、町田は仲間に後れを取るまいと、大人数のお客様相手を日常とする料理を懐石で挑戦し、存在感を示したかったのではなかったのか？また、頭の切れる人であったので、彼の提案しこたわった食品衛生上のくだりは、当然「安全」を重視する時代に先鞭をつける意図もあったような気がする。

それが、応募の際の、「大型リゾートでやってみたい」という動機となったのではないだろうか。

今となつては確かめようが無く、回顧録で想像の域を超えないが何とも心残りとなった。

なお、彼は加賀藩の家老の末裔で、お墓は君主の近くに在り、生家は文化財となつていると、本人から聞いたことがある。

.....

思うに、斯くもレベルの高いプロフェッショナル等がずぶの素人の私に相對してくれたのは、まさにサプライズで、感謝したい。

(完)